●「北海道の学校事務」の現在・過去・未来

〈第10回〉

「学校間連携」〜「領域」のさらなる深化・発展を目指して（中）

4月中旬、新年度初めての「連携会議」が開かれました。人事異動による構成メンバーの変更はなく、昨年度に引き続きシックスクールを中心とした学校環境について、そして各学校から出される様々な課題についても精力的にとりくむことが確認されました。本来なら「昨年度の成果をもとに前向きに」という雰囲気になるはずでしたが、5人の気持ちは揃って塞ぎ気味でした。「いつまでたっても事務職員は『縁の下の力持ち』のままだと思いますよ——」。あの日のB校の校長の言葉がずっと5人の脳裏から離れていなかったからです。

「『縁の下の力持ち』って、目立たないけど頑張っているという、褒め言葉じゃないの……」C校の坂井がぶっきらぼうに言いました。「結局何をしている職種かわからないからですよ」私が言うと、「言われた時はカチンとくるけど、『またか』って感じで、気づかぬうちに忘れちゃうよね。校内では運営計画の提案や日常実践でそれなりにアピールはできるけど、校外では『縁の下の力持ち』どころか『縁の下に隠れっぱなし』なのかな」。D校の加藤がまくし立てました。するとそれまで黙っていた連携会議代表の小川が「みんなで保護者向け

事務だよりを出してみないか」と唐突に切り出しました。「今まで自分たちのことを外部にアピールしてこなかったことが事実なら、何らかの手段で事務職員が学校でどんな思いで、どんな仕事をしているのかを伝える必要があると思う」。「誰も自分たちのことを理解してくれないと嘆くくらいなら行動って訳か……」。小さな声で加藤が言いました。

この時点で「保護者向け事務だより」を定期的に発行していたのは小川と私だけでした。過去に一度だけ連携会議で事務だよりについて交流をした際、E校の菊地が強く反対したことがありました。「PTA事務局の仕事や、学校行事を通じて保護者との関わりも多い。100人程度の顔と名前は一致しているし、お互いに何でも言い合える関係にあるので私には必要ない」。というのが菊地の主張でした。

「菊地さんどう思います？」。恐る恐る私が尋ねると、怪訝そうな表情を浮かべ「今でも必要はないと思っているよ。他にもアピールする方法はあると思うし……」明らかに乗り気ではない返事でした。「菊地さんの意見は個人の意見として理解はできる。でも連携会議ですすめる以上、これはそれぞれにとって仕事になるわけで、個人の好みにより『やる・やらない』とは言えなくなる。事務だよりでやってみて、ダメなら他の方法をためせば良い。それくらいの気持ちでやってみようよ」。小川の提案に反対するものはいませんでした。

■全道ですすめられる二つのとりくみ

2006（平成18）年11月、本協議会より諮問を受けた職務検討委員会が「学校間連携の推進に関わる答申」に着手しました。その結果、周囲の情勢が刻々と変化する中、全道会員にいち早く状況把握を願い、組織的なとりくみをすすめる必要があると判断されました。そして翌2007（平成19）年6月30日付けで「中間報告」が出されました。報告では、大きく2つのとりくみについて再提起され、それに基づき全道でのとりくみがすすめられました。

(1) 二本立て学校事務運営計画へのとりくみ

「学校間連携」を定着させるための手立てとして、まず二本立て学校事務運営計画があります。これまでの「領域実践」のなかでも、二本立ての運営計画についての論議はされてきました。しかし、結果的に個人的な見解の違いや運営計画に対する意図等々でなかなかとりくみがすすんでいない状況にあります。二本立ての論議には、四半世紀以上の時間的経過があり、その根幹をなすところは、私たちが求め続けている「学校づくり」にあります。これまでに培われてきた民主的な職場づくり、あるいは透明性のある財政財務活動とその裏打ちと

写真提供：富良野市立樹海小学校　校長　久守清志

なる教育情報活動は、学校事務職員固有の職務内容です。現在の二本立て～提案の最大の理由は、「領域」を学校の内外に広くアピールするとともに、その中に「学校間連携」を盛り込んで、啓蒙・宣伝する必要性からです。そして、宣伝するからには確実にその歩みをすすめていかなければなりません。属人的な実践としての「領域」ではなく、属職としての「領域」をしっかり学校現場に根付かせることが課題解決の第一歩なのです。

(2)「学校間連携」を推進するとりくみ

報告では、『推進計画による「学校間連携」の実態化に向けたとりくみ』が提起されました。職務検討委員会では組織化を最優先し、組織力によって乗り切る考えが主流でしたが、全道的な「学校間連携」の進捗状況・具体的な内容となると、まだまだ進展していない状況にありました。そのため、一人ひとりから始める草の根的な活動を展開することとし、しっかりと下から実践を積み上げ、実態化を目指しました。

■はじめよう　そだてよう「学校間連携」

(1) はじめよう「学校間連携」

2003（平成15）年第53回全道学校事務研究大会・網走大会から「学校間連携」は、その端を発しています。この大会では、『教育改革に対抗する領域の深化・発展』について、共同実施の『効率化』に対する危険性を指摘し、領域実践に関わって突出した一人の実践ではなく、全体の一歩が必要であることが共通認識されました。また、討議の中から、『課題の共有化』・『活動の共通化』・『実践の組織化』といったその後の「学校間連携」の実践を導く言葉が輩出されました。この大会を契機として、全道各地の会員によって、今まで以上に横のつながりを強固にし、市町村レベルの「学校間連携」を目指して、研究実践がはじめられました。

(2) そだてよう「学校間連携」

2006（平成18）年６月に発刊された小冊子『北海道の学校事務』では、「深化・発展する領域」の一つの視点として「学校間連携」が提起されました。

『学校間連携』とは、協力・協働の学校体制を基盤に「学校と学校」「学校と保護者・地域」の連携・協力による課題解決のとりくみです。

その中で実践課題を整理し、「学校間の連携」を展望しつつ、まず事務職員が中心になってそれぞれの学校の課題を突き合わせ、課題解決を図っていくこととしました。使用する用語についても、『課題の共有化』・『実践の共通化』と整理され、属人性の打破を目指し、「環境」・「人権」・「学校間連携」の３つの視点から各地域の実践例を示すことで、全道的な「学校間連携」の裾野を広げる狙いがありました。

全国的に「学校事務の共同実施」の調査・研究が進む中、北海道の学校事務にと

っても最大の節目と考え、続く2007（平成19）年６月、今後の「学校間連携」の在り方について「中間報告」が出されました。具体的提案として、「二本立て学校事務運営計画」による「領域」・「学校間連携」の明示と「学校間連携の推進計画」を策定することによるとりくみがすすめられました。併せて、『やさしい？「学校間連携」のススメ』、『「学校間連携」にまつわるキーワード集』、二本立て学校事務運営計画の実践例を提示する中で全体的なとりくみとして、一定程度の進捗をみせました。

そして、「学校間連携」を『北海道の学校事務における深化・発展する「領域」の「学校づくり」に向けた諸活動』という意味合いから再度定義し、「学校間連携」の今後の在り方について以下のように提案されました。

「学校間連携」とは、協力・協働による「学校づくり」を基軸とした、
教育に係る地域・学校課題の解決に向けた「領域」の集団的展開です。

■市町村の実践から

2008年度及び３年間のとりくみの成果と課題
上川管内公立小中学校事務職員協議会士別ブロック「情報発信」班

１　はじめに

2006（平成18）年度、上川管内公立小中学校事務職員協議会（以下：上事協）の研修テーマである『再構築「領域としての学校事務」～領域を捉え直す～』に関わり、上事協研修部から出された実践課題の具体的提起を受け、実践課題の一つである「情報発信」について、士別ブロック内（士別市・剣淵町・和寒町）に「情報発信班」を組織し、とりくみをすすめてきました。そして今年度はその３年目になります。

２　これまでの成果と課題

(1)　１年次（2006年度）のとりくみから

・市教育研究会・町教育研究会事務班（以下：市教研・町教研）※１と各学校との共同発行形式で発行する。
・制作は、班員を中心に作業をすすめ、発行できる学校からとりくむ。
・発行回数は、当面年２～３号とする。用紙サイズは各学校判断できめる。
・職として発行する。
・当面は「保護者向け」として作成する。

以上の基本的な確認のもと、班員間で試作版を交流し、最終的に士別市内５校（16校中）で発行することができました。

(2) 2年次（2007年度）のとりくみから

・可能であれば中学校区単位で、学期ごと年間3回の発行をめざす。

・大まかに1学期号は、学校配当予算の決算と今年度の予算額について、2学期号は新たに購入した教材備品のお知らせ、3学期号は就学援助の受付、転校手続きや教科書給与等を共通に作成する。これに、各学校独自の内容や、各自がとりくんでいるシリーズものを組み合わせる。

・士別市では、12月に開催された市教研事務班研修会の中で、参加者が既に発行した保護者向け事務だよりを、発行に至っていない学校については、構想段階の試作号を持ち寄っての研修を実施、交流の輪が広がった。

その結果、二年次は士別市内7校（14校中）で保護者向け事務だよりが発行されました。昨年度の5校から比較すると2校の増加ですが、定数減や人事異動の絡みで、実際には新たに4校（4名）が発行することになっています。また多寄中学校区では、南中学校区に続き、中学校区単位で打合せをしての発行となりました。

3　3年次（2008年度）の実践課題

・「保護者向け事務だより」の組織的な発行継続のための実践及び課題の交流、実践資料の提示

・双方向性を意識した「保護者向け事務だより」の研究継続

・「学校間連携（会議）」のとりくみとしての「情報発信」の展望を探る

4　3年次（2008年度）のとりくみ

昨年度に引き続き、可能であれば中学校区単位で、学期ごと年間3回の発行をめざしました。また、事前に開催していた作成打合せ会議を班員＋αでの開催から、ブロック全員に参加を呼びかけることにしました。

① 第1学期号発行　発行学校数　8校/19校（昨年度3校/18校）

② 第2学期号発行　発行学校数　8校/19校（昨年度5校/18校）

③ 第3学期号発行　発行学校数　9校/19校（昨年度7校/18校）

5　3年次（2008年度）の成果と課題

成果として昨年、士別市では市教研事務班研修会の中で、発行の有無にかかわらず全員が保護者向け事務だよりを持ち寄っての交流を試みたこともあり、新たに発行する学校や人事異動で発行を停止していた学校が再度発行することができました。

事前に開催した「作成打合せ会議」は、学校行事との兼ね合いなどから少人数での開催となりましたが、市内で連携してとりくんでいる学校のトイレの状況について取り上げることが確認できました。

課題として、士別市のみでの発行にとどまっていることから、「士別市・剣淵町・和寒町教育研究会　学校事務班監修」の文字記載について話題になりましたが、とりくみ当初の「職として、全員の発行をめざす」というねらい実現のため、引き続き記載することとしました。また、作成の負担をできるだけ軽くし、発行しやすくする活動が中心となったため、双方向性や「学校間連携」を意識し、具体化した活動についてはまだまだ不十分であり、今後の課題として残っています。

6　3年間の活動を終えて

3年間の活動を終え、入り口論で論議がすすまない状況に変わりはありません。パターン化を図ったものの、個人の考えなり、主張が反映されないものに発行する意義や魅力が感じられないとの率直な意見もあります。発行を急ぐあまり、この部分の丁寧な論議が欠けていたことは反省しなくてはいけません。

実践面では試作号の提供から始まり、少しでも作成の負担を軽くしながら広がりを求めるとりくみを活動の中心にし、「とにかく発行してみよう！」ととりくんできました。

その結果、およそ半数の学校で発行することができました。今後は、把握した学校の課題を「学校間連携」で共有化しなければなりません。そして、実践の共通化をすすめる活動を確実に情報で発信することにより、課題解決につなげることを強く意識してとりくむ必要があります。

※2009年11月現在、士別ブロックにおいて、保護者向け事務だよりの発行状況は13校/19校となっています。

その後約2ヶ月をかけ、事務だより発行に向けて論議を重ねました。どのような内容で発行するかではじまった論議は、事務だよりの持つ効力や意義、日常業務の交流から学校事務職員の存在意義に至るまで広がりました。その結果、第1号はB4版の三分の一に学校事務職員の職務について全校がほぼ共通の形で掲載し、残りは「連携会議」ですすめている課題解決の実践と、各学校における事務職員の活動の様子を各自の裁量で掲載することとしました。「連携会議」発行の事務だよりも考えましたが、「学校づくり」を基軸とした「学校間連携」の本来の姿から、各学校からの発行となりました。

一ヶ月後の「連携会議」でのこと、「何か反応あったかい？」という小川の問いかけに、「先生方からの評判は良かったよ。でも肝心の保護者からはね……」。坂井が言いました。その他のメンバーも期待していたような保護者からの反応は得られなかったようで、しばらく沈黙が続きました。その時、菊地が「こんな手紙をもらったんだ」と言って鞄からピンクの封筒を取り出しました。封筒の中にはかわいい花柄の便箋が一枚入っており、「中を見てもいいよ」という菊地のひと言で、小川が手紙を読み始めました。

『娘が持ち帰ってきた「E中事務通信」、菊地さんの人柄と生徒たちへの思いがひしひしと伝わってきました。楽しく読ませていただきながら、私が中学生の頃の出来事を思い出しました。友人といざこざがあり、放課後の誰もいない廊下で泣いていたら、「どうしたの？」と声をかけてくれた方が事務の方でした。「心配ごとがあるなら先生に相談してみなさい。言いづらいなら私から言ってあげようか」と言ってくれました。その時、学校にいる大人はみんなやさしくて、私たちのことを守ってくれるのだと感じたのです。これからも生徒たちのことをどうぞよろしくお願いします。』

「反応あったじゃないですか！」と興奮気味で言う私に対し、「それがちっとも良くないんだ。実は――この手紙の差出人の顔がどうしても思い出せなくて……。この規模の学校で、５年もいて未だに保護者の顔と名前が一致しないなんて、本当情けないよ……。それにそれほど思いを込めた文書でもないのに、子どもたちに対する思いがひしひしだってさ……」。深刻そうに語る菊地を見て、私は不謹慎ながらつい笑ってしまいました。他のメンバーもつられて笑い出しました。「やっぱり出してみないと何が起こるかわからないよね」皮肉っぽく坂井が言いました。菊地も照れ笑いを浮かべました。結局この年、全員で同時期に発行した「保護者向け事務だより」は学期に一度の計３号にとどまりました。しかし、そのたび毎に熱い論議が繰り広げられました。そんな私たちを支え続けていたものは――菊地がもらったあのピンクの封筒に入った一通の手紙だったのかもしれません。（次号へつづく）

〈参考文献〉
■北海道の学校事務　―深化・発展する領域―
　／北海道公立小中学校事務職員協議会編（2006年）
■北海道の学校事務　―第２集―
　／北海道公立小中学校事務職員協議会編（2008年）
　■2008研究集録・研修部報告
　／上川管内公立小中学校事務職員協議会（2009年）

※１　北海道内の市町村毎に在る教育研究団体。任意団体ではあるが校長・教員・事務職員など道費職員のほとんどが加入しており、会費と市町村からの助成金・補助金によって運営されている。市町村によって多少の違いはあるものの、教科・教科外の班が十数班設けられ、その中に「学校事務班」が設置されている場合が多い。年に一度の研究大会と年に数回の班研修日が設定されており、学校事務職員にとっても市町村単位の研究推進・研究の場になっている。

〈イラスト〉村山悠子
（札幌市立元町中学校教諭）

保護者向け学校事務情報紙
てし・お・ぺっ

情報誌名について
「てし・お・ぺっ」とはアイヌ語で「天塩川」のこと。道北地方の開拓を支えてきたこの大河の如く，子ども達の為に進んで行く決意を表すために拝借しました。

第二学期号　2008年12月19日発行
士別市・剣淵町・和寒町教育研究会　学校事務班　監修
文責：士別西小学校　事務職員　井上政利

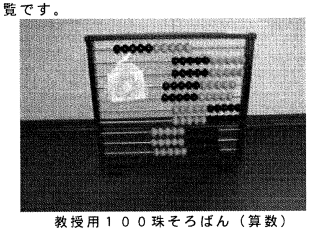
◆こんにちは

みなさん，こんにちは。早いもので今年もあとわずかとなりました。冬本番を感じさせる今日この頃ですが，子どもたちにとっては，クリスマスやお正月などいろいろと楽しみな季節ですね。

さて，学校事務情報誌「てし・お・ぺっ」第二学期号（通算第７号）ができましたので届けいたします。

◆教材備品のご紹介

今年度購入した教材備品（子どもたちが授業などで使うための備品）の一覧です。



教授用１００珠そろばん（算数）

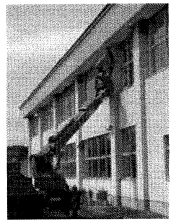
教材区分	品　名	数量
学校共用	ワイヤレスマイク	1
	低位置両面ホワイトボード	1
国　語	かるい水筆書き方指導板	1
算　数	MGカラー分数カード	1
	Q＆A　BOX算数	1
	教授用100珠そろばん	1
	グループ用リットルます	1
図　工	デイスクカッター　DC-230型	1
体　育	二つ折りエクササイズマット	1
	移動式低鉄棒	1
	鉄棒運動補助具さかあがり君　3個組	2
	L型ミニサッカーゴール	1
総　合	ふきだし黒板(5枚組)	1
	空気の汚れ観察器	1
特別支援	両面式グリーン黒板（10枚入）	1
	ソフトバランサー	1
	おしゃべりバード	1
	バランス平均台（6セット）	1
	言語訓練支援ソフト　ことばのくんれん	1
	書き順練習板　ひらがな編	1
	ムーンウォーカー	1
	配列イラストカードセット	1
	食育おかいものごっこ　コンテナBOX	1
	感覚統合バランスペダロ	1
	ドミノ100（2個組）	1
理　振	デジタルカメラ	6

このほかにも「管理備品」として，職員室で１３年間使用したファクシミリが故障しましたが，部品供給が終了しているため修理不能となり，更新してもらいました。

また，今年２月末にコピー機（１３年使用），１０月には職員室校務用のデスクトップパソコンとレーザープリンター（９年使用）を，耐用年数が過ぎ，使用に耐えない状況になったことからリース契約で更新してもらいました。

児童・生徒用パソコン更新については，今年度で中学校の更新が完了したことから，次年度から小学校を年次計画で更新する予定となっています。ただ，西小については現状のパソコン室の広さで，児童一人につき１台のパソコンを配置するには少々狭く，検討を要することから更新計画の後半で実施する可能性もあるようです。古い機械で苦労して授業を行っているので，少しでも早く更新してもらえると有り難いですね。

◆今年度の備品・学校施設営繕



平成２０年度に行った備品修繕と学校施設営繕についてお知らせします。

① 備品修理　・遊具（シーソー）・芝刈り機・パソコン室サーバー・教室ストーブ・印刷機　各１台

② 学校施設営繕　・プレールーム灯油コック修理（油漏れのため交換）・家庭科室湯沸かし器給水バルブ修理（操作性向上のため交換）・体育館非常口扉固定金具取付（風で閉まらないように）・ガス器具のゴムホースとバンド交換(耐用年数切れのため交換）・北側校舎破風修理（鉄板・モルタル落ち危険解消）・児童玄関屋上の屋外子時計撤去・取付修理及び南側校舎屋外子時計調整器端子ボックス取付修理（工事費の一部を教育委員会に負担していただきました）・プレールームに図書コーナー設置（市立図書館より貸出図書の配置を受けて設置しました）・１階水飲み場に汚水用シンク取付修理（旧糸魚小からの移管設置）

③ 社会貢献事業等から　・校門間のグレーチング修理と駐車場の白線引き（(株)ＮＩＰＰＯコーポレーション様）・１階水飲み場に，旧糸魚小校舎から移管した混合栓の取付（フジヤ住設工業(株)様）・児童玄関屋上に屋外子時計設置（開校３０周年記念品として西小ＰＴＡ及び同窓会様より）

◆学校のトイレ

士別市教育研究会学校事務班では，各学校の課題を持ち寄りその解決のために連携をする取り組み（学校間連携）を行っています。その一環として市内の小中学校のトイレについての調査を行いました。（中多小，中士小，上士中を除く）

その結果，約４割の学校でトイレに不満があると回答しています。その理由は臭いや壁をはじめ床，便器の汚れなどもありましたが，一番多かった理由は「洋式便器がない」ということでした。現在すべてが洋式便器となっている学校は糸魚小と士中のみ，１～５か所が洋式である学校が６校，和式便器に洋式の便座をかぶせる「簡易便座」でしのいでいる学校は５校あります。

現在，各家庭はもちろん公共施設や商業施設でも「洋式便器」が設置されていることと思います。子どもたちも普段は「洋式便器」を利用していることが多いのではないでしょうか。学校は子どもたちが一日の多くを過ごす生活の場であることを考えても，やはり全ての学校に「洋式便器」を設置してほしいと考えています。

西小学校では，１階の児童トイレに男女各１個の「洋式便器」を設置してもらっています。他の学校とも連携して引き続き２階のトイレにも設置を要望していきます。

◆ＰＴＡ安全互助会について

本校ではＰＴＡを単位として「北海道ＰＴＡ安全互助会」に加入しています。登下校中や，少年団活動中，下校後の家庭内や友だちと遊んでいてケガをした場合，請求によって見舞金が出ます。また，ＰＴＡ会員及び児童がＰＴＡ活動中にケガをして病院にかかった場合も対象となります。

お子さんの場合は最初に病院にかかった日から最後にかかった日までが７日以上，ＰＴＡ会員の場合（ＰＴＡ活動中の児童を含む）は１日目から対象となります。詳しく知りたい方請求に必要な用紙などが必要な方は学校（事務職員）までお知らせください。

情報紙についのご意見，ご質問，ご感想などお聞かせください。

保護者向け学校事務情報紙　温根別小学校

学びの舎

第二学期号
2008年12月19日発行　（通算第7号）

士別市・剣淵町・和寒町教育研究会　学校事務班　監修
文責：温根別小学校　事務職員　鍵谷隆文

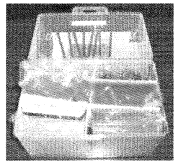
◆こんにちは

みなさん，こんにちは。早いもので今年もあとわずか。子どもたちにとっては，クリスマスやお正月などいろいろと楽しみな季節ですね。いよいよ冬本番を感じさせる今日この頃です。

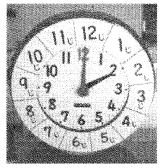
さて，学校事務情報紙「学びの舎」2008年度第二学期号（通算第7号）ができましたのでお届けいたします。

◆教材備品のご紹介

今年度納入されました教材備品をご紹介します。今年度は，算数の授業で使う備品，そして行事等で使用する備品を購入しました。

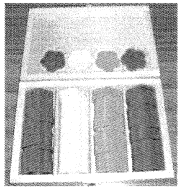


①新かぞえ棒　1組　¥11,245円
計算練習だけでなく平面図形や立体図形の説明にも使用します。

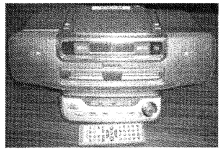


②時計模型　1台　¥18,780円
算数の授業の中で時間を理解するために使用します。

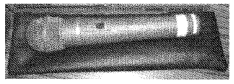
③両面移動式黒板　1台　¥44,625円
低学年教室で活躍中です。



④マグネット付おはじき　1組　¥11,602円
主に低学年の算数の授業で計算の説明などに使用します。



⑤MDラジカセ　1台　¥30,450円
学芸会では早速大活躍でした。



⑥ﾜｲﾔﾚｽﾏｲｸ　1本　¥34,650円
いままでのものが壊れてしまったため更新しました。

◆学校のトイレ

士別市教育研究会学校事務班では，各学校の課題を持ち寄りその解決のために連携をする取り組み（学校間連携）を行っています。その一環として市内の小中学校のトイレについての調査を行いました。（中多小，中士小を除く）その結果，約4割の学校でトイレに不満があると回答しています。その理由は，臭いや換気，床や壁，便器そのものの汚れなどもありましたが，一番多かった理由は「洋式便器が無い」ということでした。現在，すべてが洋式便器となっている学校は。「士別中（26ヵ所）」「糸魚小（9ヵ所）」の2校のみ。一部が洋式便器となっている学校は，「士小（12ヵ所）」「南小（6ヵ所）」「西小（2ヵ所）」「下士別小（2ヵ所）」「多寄小（2ヵ所）」「南中（1ヵ所）」「多寄中（5ヵ所）」の計7校でした。また，洋式便器の替わりに「簡易便座」を使用しているのは，「武徳小（4ヶ所）」「上士別小（1カ所）」「朝日中（2ヵ所）」「上士中（2ヵ所）」「温根別中（1カ所）」そして「温根別小（2ヵ所）」の6校です。「簡易便座」は，形は洋式便器ですが，当然便器自体には水は流れないなど衛生面で非常に不安があります。

現在，各家庭はもちろん，市の公共施設やデパートなどの商業施設でも，ほとんど「洋式便器」が設置されていることと思います。子どもたちも普段は「洋式便器」を利用していることが多いのではないでしょうか。学校は子どもたちが一日のほとんどを過ごす生活の場であることを考えても，やはりすべての学校に「洋式便器」を設置してほしいと考えています。温根別小学校としても毎年，校舎営繕の際に洋式便器の設置を市教委にお願いしています。今後は，市内の未設置校とも連携して引き続き要望していきます。

◆PTA安全互助会について

【学校外でケガをした場合にも見舞金が受けられます】

学校の授業中，休み時間や登下校中など学校管理下でのお子さんのけがについては独立行政法人日本スポーツ振興センターの保険の対象となっていますが，本校ではＰＴＡを単位として北海道ＰＴＡ安全互助会に加入していますので，下校後や冬休み中の家庭内でのケガや友だちと遊んでいてケガをした場合についても，請求によって見舞金が出ます。そして，既にご案内している通り，登下校中のケガについても補償の対象となっています。また，ＰＴＡ会員及び児童がＰＴＡ活動中にケガをして病院にかかった場合も補償の対象となります。

お子さんの場合は最初に病院にかかった日から最後にかかった日までが7日以上の場合，ＰＴＡ会員の場合（PTA活動中の児童を含む）は1日目から対象となります。

詳しく知りたい方，請求に必要な用紙などが必要な方は学校（事務職員）までお知らせください。

◆事務職員の仕事シリーズ②（こんなこともやってます）

ご存知の方も多いと思いますが，学校の玄関の中には大きな金魚が2匹，悠々と泳ぐ水槽があります。この水槽，10月頃水漏れのため使用できなくなり，小さな水槽に替わっていたのをお気づきでしたか？　新しいものを買うにも，或いは業者に修理に出すにも予算的に厳しく，これは自分で直すしかないと思い，ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ等で調べてみると，「ﾊﾞｽｺｰｸ」という水槽修理用の接着剤があることが解り，早速購入しました。(398円！)元来，手先が不器用な私，説明書にはいとも簡単に直せるように書いてありますが，思ったようには中々いきません。一部ﾏｽｷﾝｸﾞﾃｰﾌﾟごと接着してしまった（^^;）ところがありますが，何とか無事修理完了。現在，再び2匹の金魚たちは悠々と泳ぐ姿を子どもたちに見せてくれています。ちなみに，エサやりなどの金魚のお世話は，児童会のみなさんが一生懸命やってくれています。

情報紙についてのご意見，ご質問，ご感想などをお聞かせください。（鍵）

保護者向け学校事務情報紙

てし・お・ぺっ

士別市・剣淵町・和寒町教育研究会 学校事務班 監修

情報紙名について
「てし・お・ぺっ」とはアイヌ語で「天塩川」のこと。道北地方の開拓を支えてきたこの大河の如く，子ども達の為に進んで行く決意を表すために拝借しました。

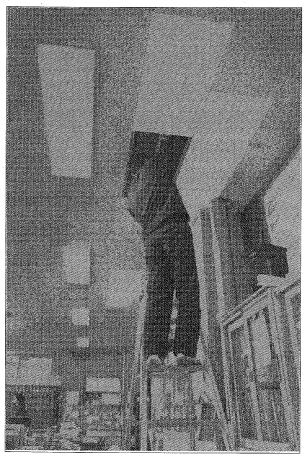
2008 年 12 月 24 日発行 二学期

文責：士別南小学校 事務職員 岡崎敏秀

南小2年目です。

◆早くも春の風物詩・・・？

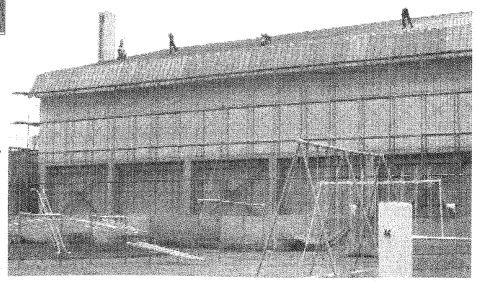
写真は職員室の天井裏から漏れてくる水を、本校の業務技師が処理している作業風景です。水漏れの原因は校舎屋上の雪がとけた水で、それが隙間から入り込み、配管の外側部分などを伝わり落ちてきます。例年ですと雪解けが始まる春に水漏れがあるのですが、今回は１１月のどか雪、そして１２月の雨で屋上に水がたまってしまったようです。



南小では職員室の他にも水漏れ常連箇所として、３階音楽準備室や児童用トイレがあります。家庭科室に水が落ちてきたこともありま　す。当然学校としても施設営繕要望としてあげているのですが、なかなか改善しきれてはいません。春の陽気とともにやってくるはずのこの現象が一足早くやってきてしまいました。もう少し気温が下がるとこの現象もいったん収まると思います。私個人的にはあまり寒いのは好きではありませんが…。

下の写真は８月２０日に撮影したもので、施設営繕要望であげていた体育館の雨漏り改善のための塗装作業の様子です。今年営繕の実施がされたのは、グラウンド砂場の改修、水飲み場混合栓の増設、教室前壁のクロス張替、そしてこの体育館屋根塗装です。これで体育館の雨漏りがなくなります。ありがたいですね。

（脚立に乗っての作業。お疲れ様です。：職員室）



高所での作業は手作業で行われていました。お話を聞くとスプレーなど機械を使うと風により飛散し、周辺の家屋や車などに塗料が付着してしまうおそれがあるためとのこと。たいへんな作業です。

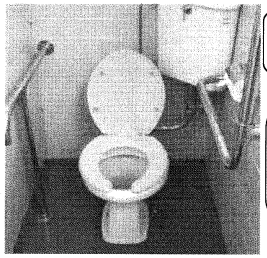
◆トイレのおはなしです

士別市には学校職員の研究団体、「士別市教育研究会」があります（この情報紙の監修にもその名が見られます）。先生方は各教科、領域ごとに班を形成（国語班、社会班etc）し研究活動を行っています。そのうちの一つに「学校事務班」があり、私も所属しています。学校事務班では課題を共有し、学校間、市教委等と連携し解決しようととりくんでいます。
今年度の課題の一つとして「学校のトイレ」を取りあげ、各学校のトイレについて交流しました。

トイレ事情は様々で和式便器だけの学校もあれば、全てが洋式便器という学校もあり、新築された糸魚小学校にはなんとウォシュレットもついています。

南小はというとほとんどが和式便器で、洋式便器は各トイレ一箇所ずつの設置になっています。利用のしやすさからいってもきっと洋式の方がよいのでしょうが…。最近の公共施設やお店のトイレはたいへん素晴らしい環境になっています。今年オリンピックが開催された北京でも、期間中はトイレを清潔に保つことにとても力を入れていたのは記憶に新しいところです。大人も子どもトイレは清潔で利用しやすい方が良いですよね。

因みに工事費４００万円以上のトイレ改造には１／３の補助が出るようです。４００万円…。



南小の洋式便器です。

糸魚小の洋式便器です。ちょっぴりゴージャスな感じがしますね。

◆前号に引き続き南小プール話

前号で幻のプールについてのお話を載せましたが、その当時の様子について有力な情報がありました。南小移転当時小学生だった方のお話によると、移転前の旧校舎にはなんとプールがあったということです。それでは移転後はというと、水郷公園にあったプールを利用したとのことです。水郷公園までは歩いて行ったのか、自転車だったのか、バスだったのかは記憶にはないとのこと。公園までは３㎞ほどあり、今では低学年の遠足コースにもなっている距離。はたしてどのようにして行ったのでしょう。しかしなぜ旧校舎にあったプールが新校舎では造られなかったのでしょうか？なおさらに上の世代の南小生はプールではなく天塩川に泳ぎに行っていたとのことです。川で泳げるようになったらどこででも泳げますよね。

この話の情報源は南小の事務生と温根別中の事務職員からのものです。

保護者向け学校事務情報紙

いとい

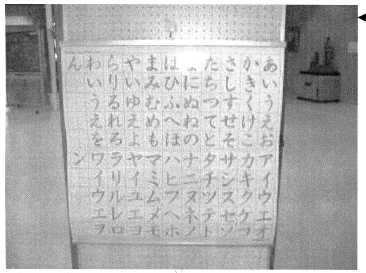
2008年12月18日発行　第2号

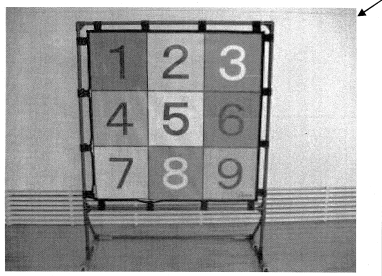
<士別市・剣淵町・和寒町教育研究会　学校事務班　監修>

糸魚小学校　事務職員　石田

新校舎へ引っ越して一年が過ぎようとしている。これを書いている今、２年生教室からは九九を唱える声が、音楽室からはかすかに聖者の行進の合奏が聞こえてくる。設計時、最初に要望したのは子どもたちの様子が居ながらにしてわかる造りにしてほしいということ。願いがかなった校舎は白が基調。さながら油絵のカンバスだ。そして、ここにとりどりの絵を描くのは子どもたち。自分はそれを支えていきたい。

◆今年度新しく購入した備品をご紹介します。





１．ひらがな・カタカナ筆順ロールシート
　＊ひらがな・カタカナを習得する１年生が主に使います。
２．ノートシートマグネットシート黒板
　＊算数ノートの使い方を学習するために使います。
３．ふきだし黒板
　＊自分の考えを書き込んで友達と交流する時に使います。
４．ダイヤブロック基本セット
５．両面式グリーン黒板
６．ターゲットゲーム
　＊子どもたちに大人気です！

１１月に次年度の教材備品の要望を市教委に提出しました。主な要望として「ホットプレート」「掛け算フラッシュカード」「跳び箱用踏切板」「キンボール」「指導用星座早見盤」などを出しました。

児童用机椅子も５セット購入しました！

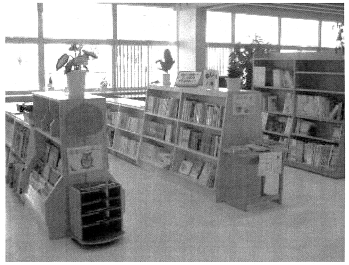
児童用の机椅子はその身長に合わせていくつかの大きさ（号数）に分かれており、それぞれに適合身長（規格）というものがあります。本校では、校舎改築時に新ＪＩＳ規格のものに更新したのですが、新しい規格ではその適合身長の幅が大きく、体に号数が合致していても子どもによっては以前より窮屈そうでした。そこで幾人かの児童の机椅子を一つ上の号数に取り換えることにしましたが在庫として持っている予備でも間に合わないため、教育委員会にお願いして大きい号数を５組購入していただき、取り換えることができました。

環境整備～現場から◆

少し古い話になりますが、夏休みに入る前に図書コーナーの児童図書の整理作業を先生方全員で行いました。校舎の引っ越しの時“とりあえず”という形で棚入れしてあったものを全て取りだして分類別に整理しました。

図書コーナーは週に２回朝読書の時間を始め各教科の学習や特別活動などで活用されています。今年度の児童図書予算は９７，０００円でしたが、多くの御寄贈もいただき、４６０冊の図書を新しく整備することができました。

蔵書の充実とともに，植物を置く（士別市立図書館の窓際の閲覧コーナーが個人的にはお気に入りです。そこに植物がさりげなく置いてあります。）など雰囲気づくりも色々試みています。



◆学校のトイレ～連携した取り組み◆

士別市教育研究会学校事務班では、各学校の課題を持ち寄りその解決のために連携をする取り組みを行っています。その一環として今回、市内小中学校のトイレについての調査を行いました。（中多小、中士小、上士中を除く）その結果、約４割の学校がトイレに不満があると回答しました。その理由は、臭いや壁をはじめ床や便器の汚れなどがありましたが、一番多かったのは「洋式便器がない」ということでした。現在、すべてが洋式便器となっている学校は糸魚小と士中のみ、あとは１～５か所が洋式という学校が６校あり、和式便器に洋式の便座をかぶせる「簡易便座」でしのいでいる学校は５校あります。糸魚小も旧校舎では「簡易便座」を使用していましたが衛生面で不安がありました。使っている学校はどこも同様の悩みがあるようです。

現在、各家庭はもちろん公共施設やデパートなどの商業施設でも「洋式便器」が設置されていることと思います。（名寄のＩオンのトイレは素晴らしい！）子どもたちも普段は洋式便器を利用しているのではないでしょうか。学校は子どもたちが一日の多くを過す生活の場であることを考えても、やはりすべての学校に「洋式便器」を設置することが望ましいと考えます。

糸魚小は幸いにも校舎改築でトイレは全て洋式便器になっています。今後も市内事務職員で連携し、トイレだけではなく、子どもたちが過ごしやすい学校を目指して取り組みを進めていきたいと思います。

機会がありましたら情報紙についてのご意見、ご感想などお聞かせください。